

報町利由東

5/1

No. 314 昭和56年 5 月 1 日 発行 昭和42年 7 月 18 日 第 3 種 郵便物 認可 毎月 1 日 発行

昭和56年

No. 314



大吹川 袖山間 地すべりで通行止

「対策本部」設置し万全期す

四月十二日、農免農道軽井沢線大吹川地内の道路と上方の法面に亀裂が入り、崩落の危険があることが確認され、翌十三日には亀裂が拡大し、道路約八十メートルにわたって滑落崖が発見されました。また十四日には、新たに法面上方の山林に陥没帯が発見され、町と由利農林・土木両事務所の関係職員、それに民間専門会社による調査の結果、他地区よりも程度の大きい地すべりであり、活動中の地すべりを停止させることは非常に困難で適用できる工法も限られているということになりました。

このため町では、十五日に助役を本部長とする「地すべり対策本部」を設置、危険区域を全面通行止めにする一方、▽う回路の確保整備▽二次災害防止▽農業関係被害防止▽通学対策——などの諸対策に万全を期しました。また、伸縮計や定点測量などによって活動状況を確認するとともに、監視態勢をとり安全確保に努めています。地すべりは今も進んでおり、町では通行止めを継続し、今後、県関係機関と連携をとりながら国から「地すべり地帯」の指定を受け、できるだけ早く防止対策を講じたいとしています。

町の生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

自治会長功労で二氏表彰

部落自治会長会議

納税優良表彰は一個人・二組合

今年の部落自治会長会議は、四月二十一日町開発センターで開かれ、会議に先立ち、部落自治会長として長年にわたり部落自治の振興と町行政の円滑な推進に協力され町勢発展に寄与された二氏と、納税意識の高揚に特に顕著な成績をあげている一個人、二納税組合に対し、町長から表彰状と記念品が贈られました。

会議では、先ず小松町長があいさつに立ち、農林・建設・福祉・教育・過疎等の各分野の主な施策概要について説明しながら、「明るく豊かな町を築くために、郡内十カ町の中で一番の公共事業量を導入し、町勢発展に努めている」と述べ、町政に対する理解と協力を要請しました。

続いて、小野町議会議長があいさつ。来賓を代表して木谷秋田県由利地方部長から、



町長から自治会長功労表彰を受ける畑山さん

◎自治会長功労表彰

・島自治会長 畑山田造氏
・舟木自治会長 長谷山二郎氏

◎納税優良表彰

・伊東政太郎氏(横渡納税貯蓄組合長)
・五海保納税貯蓄組合

・智者鶴納税貯蓄組合

◎協力依頼事項等

(総務課)

・「町づくり広報バス」について(町内の公共的施設や道路状況等を実地にみてもらい、全町的視野からみた町づくりを話し合うことを目的に、町内一日コースで年七回運行。詳細は後日お知らせする。)

(住民課)

・清掃・環境衛生について(四月二十六日午前中、全町一斉に道路清掃を。同日から五月二日までを清掃週間として屋内外の清掃を。清掃指導は各自治会で自主的に。)

・ゴミ処理について(ゴミは捨てるという習慣から処理するという考えに。地域や自治会で処理場を設ける場合は役場に連絡を。)

対象範囲はこれまでどおり。

・水田利用再編第二期対策について(条件整備等に、補助、融資制度の効率的活用を)

・農業総合指導センター運営について(機構改革し、専門的な施策を検討する「作物・畜産・後継者・生活」の四部門協議会を設け、より機能するようにした。)

・畜産振興の推進について(関係者と協議のうえ、本年度から新たに町単独事業として▽公社導入牛に対し上限六十万円までの利子補給▽優良子牛保留対策として一頭三十万円を限度に三年間の利子補給▽県単事業の保留対策に町がさらに一年間延長して利子補給一を実施するので利用を。)

・出羽丘陵開発について(本年度に事業参加農家の取りまとめを行う。後日、説明会等を開くので積極的に出席してほしい。)

・土地改良事業状況について(整備可能地は百歩近く整備できた。)

・道路改良に伴う潰地について(地元で潰地解決のための態勢をつくるなど、用地確保に協力を。道路敷の登記は主務職員を置き、早期に完了するよう進めているが、相続権の承継などで時日を要するものもありご理解を。)

・家屋の新増築について(施工は、建築確認申請書を提出

し、確認通知書が交付されてから着工する。除雪の関係から、道路の境界から二メートル以上離して建築するよう行政指導しているのをご理解とご協力を。)

◎教育委員会

・主たる教育施設について(小学校教育問題が早期に解決するようにご理解とご協力を。町教育研究所は町学校教育の問題点等を把握し解決策を講じるため、専門的資料の収集、分析等を行ない、学校教育の発展、充実に努めている。)

・青少年の健全育成について(子ども会、親の会の活発化と組織化、社会教育事業、公民館活動の充実を図り、健全育成に努める。地域でも非行防止のために「一声運動」にご協力を。)

◎お知らせ連絡事項

・自治会の交付金について(1)自治会長手当算出基準・均等割一三、五〇〇円・世帯数割一世帯当り九〇〇円・特別加算金一、七〇〇円(遠隔地部落)

(2)自治会運営費算出基準・二十世帯の自治会 一一、九五〇円・二十世帯を超える自治会 一一、九五〇円に、二十世帯を超える世帯数一世帯につき二五〇円を加算した額・二十世帯未満の自治会 一一、九五〇円から、二十世帯に満たない世帯数一世帯につき二五〇円を差し引いた後の額。・納税貯蓄組合(自治会)の

交付金について(一世帯当り)

(1)納期内納付成績割	
95%以上	一、四〇〇円
90%以上	一、〇〇〇円
85%以上	八〇〇円
80%以上	四〇〇円
75%以上	三〇〇円
50%以上	二〇〇円
75%未満	二〇〇円

(2)月別完納成績割(一世帯当り)

一月末まで完納組合二〇〇円	一〇〇円
二月末まで	一〇〇円
三月末まで	五〇円
昭和五十六年度の町税納付について	

(1)町・県民税と固定資産税には、有利な前納報奨金の制度がある。(前納の場合は、印かんを持参してください)

(2)五十六年度から軽自動車税の月割課税制度が廃止される。

(3)国民健康保険税の課税限度額は二十六万円になる。

・土地売買等の届出について、国土利用計画法によって、一定面積以上の土地の売買等の契約(予約を含む)をする場合は、売る者・買う者があらかじめ届出書を市町村長を通して知事に提出しなければならぬ。一定面積とは、本町の場合一万平方メートル以上(約一町歩以上)。

知事は、届出書の内容が適当であれば六週間以内に許可する。許可がなければ、登記はできないことになる。届出用紙は役場(企画係)にある。詳しいことはお問い合せを。

新たに部門協議会設置

農業総合指導センター機能充実

執行機関の連絡調整のほか、施策検討の機能を加え、より機能する指導センターに—と町では、今年度から農業総合指導センターの機構を別表のように改革し、センターを中心として関係団体がその機能の中でお互いの連絡協調と指導の一元化を図り、農業経営の安定と地域農業の確立を図って行くことにしました。

これに対して、定例議会や町政座談会、その他の機会に▽センターに行けば農業関係のすべてが用足りるような場、機関にしてほしい▽町一体性の上にたった農業施策を運営する機関であってほしい—といった意見・要望が農家の声として出され、センター機能の充実が早急な課題とされていたものです。

こうしたことから町では、新たに、職員外の関係団体の適任者で「作物」畜産「後継者」「生活」の分野について専門的に施策を検討する部門協議会を設置し、より機能し、効果があがるようにしようとするものです。

つまり、運営委員会は、各関係団体の長で構成し、施策の基本的事項等について協議

する。部門協議会は、その基本に沿った具体的な施策等について検討する。そして職員で構成する指導部会が、決定された施策の執行にあたる—というものです。

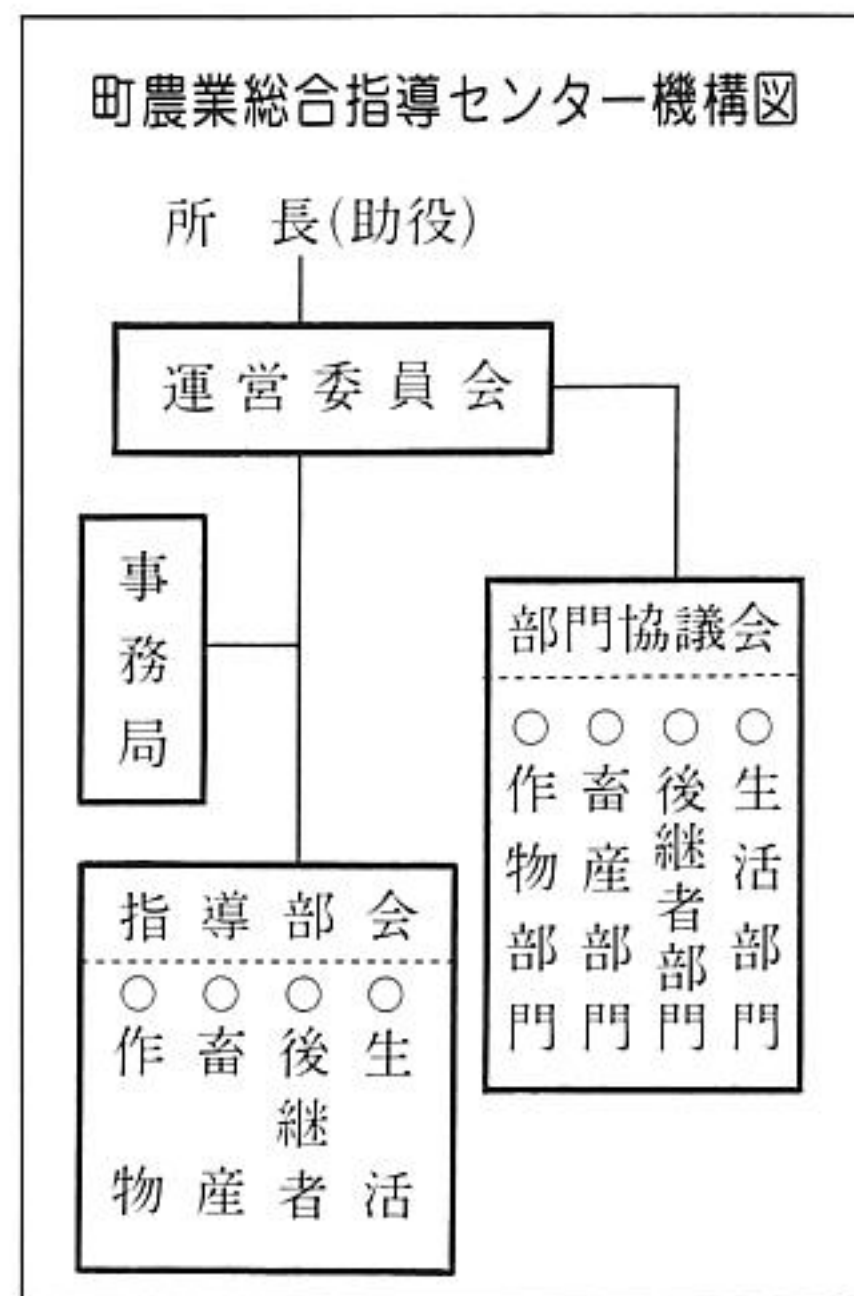
また、役場や農協等の職員を一カ所に集めるということについては、制度的にも実際的にも難しく、一つ一つの事項についてお互いが共通理解の上で連絡を密にし、それぞれのことがらに当たるとい

ことで解決していきたいと考えています。

水田再編など厳しい農業情勢にあつて、町では、名称から受けるイメージには合わないという方もおられるでしょうが、以上のような考え、機構で農業総合指導センターの運営にあたり、長期展望の上にたった東由利農業の確立に努め、農家の期待に応えたいとしています。

農家の意欲的参加を要請しました。

同センターは、関係農業団体がお互いに連携をとり、地域農業の振興発展を図っていくと、去る昭和四十九年に



労働者就労者打合せ

活発に情報交換

二氏に感謝状と表彰状

昭和五十五年度の出稼ぎを反省し、問題点を協議し合うとともに、次季就労に向けて

情報交換を—と四月二十四日、グループリーダーなど約八十人が出席して「出稼ぎ就労者打合せ会」が町開発センターで開かれました。

このあと協議に入り、▽五十五年度の就労状況▽雇用保険受給手続き方法▽国民健康保険資格得喪手続き—などについて各係から説明されたほか、「双葉電子工業(千葉県)」「立花組(兵庫県)」「東京鉄工(茨城県)」の各事業所就労者代表から、事業所の概要や就労状況などについて紹介されました。

また、「安定・安全就労の面から、技能訓練講習会は毎年実施してほしい」といった要望が出されるなど、活発な意見・情報の交換がなされました。

実践さながらの消火活動

蔵地区で大火防止訓練



想定訓練とはいえ実践さながらに

午後二時、蔵立寺本堂付近より火災発生、全分団出動せよ—今年の春の大火防止訓練は四月二十五日、蔵地区で行われました。

この訓練は、町の防災計画に基づく訓練として気象悪条件下の家屋密集地域での大火を想定し、地域住民参加のもと、災害の予防、防ぎよ等防災体制の強化と防火思想の高揚を図ることを目的に毎年実施しているものです。

当日は、町消防団員、地元婦人消防隊、役場特設消防隊、分署員、警察官、交通指導隊、東北電力のほか、自動車ポン

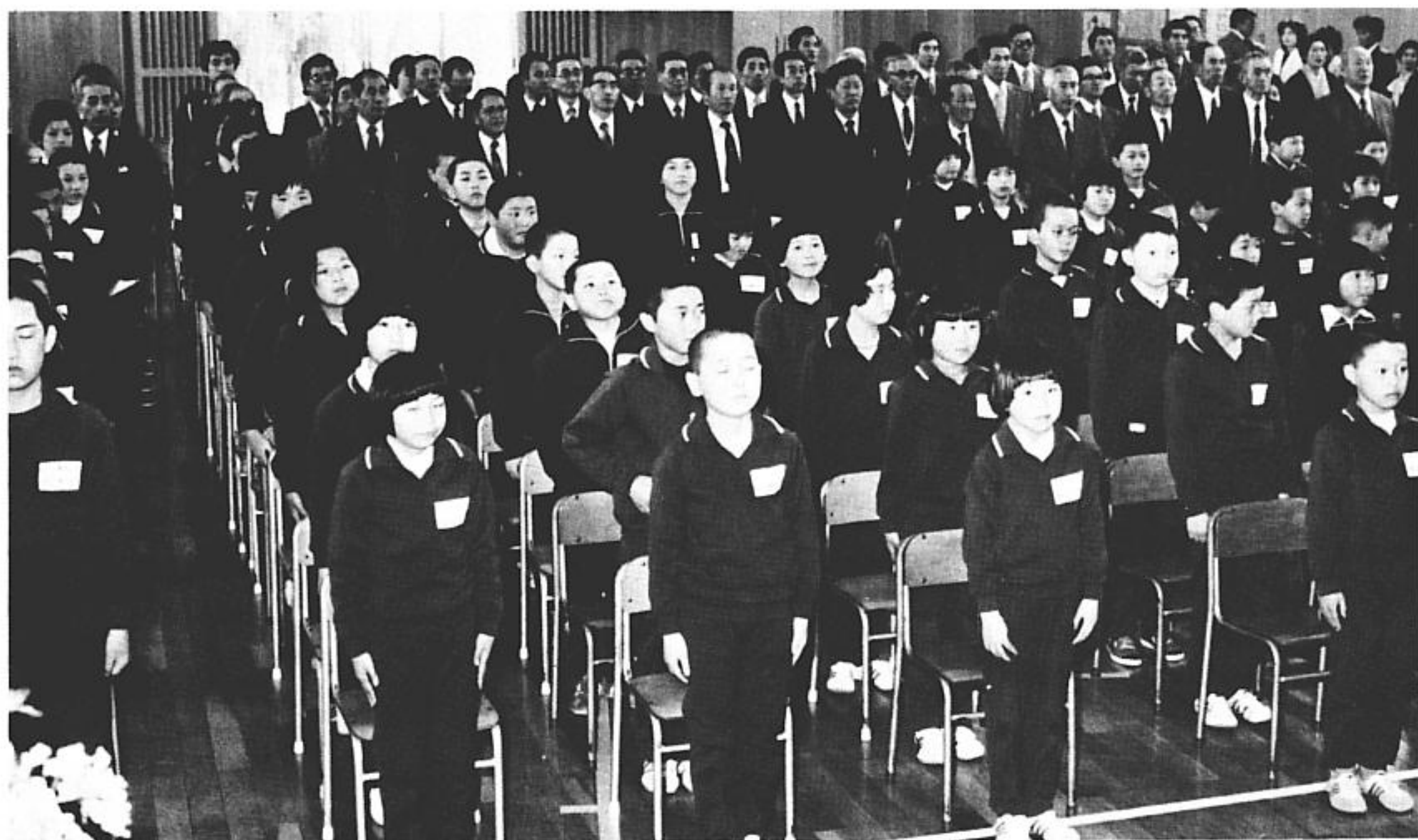
プや小型ポンプ、救急車など車両十八台が出動。約四十分間にわたって実践さながらの消火活動、救急活動を繰り広げました。

訓練終了後、防火思想普及のため、農協蔵支所前から蔵小グラウンドまで分列行進をしました。

「あなたです、火事を出すのも防ぐのも—これから火災の発生しやすい時期となります。日ごろから火の取り扱いには細心の注意を払い、悲惨な「赤い炎の犠牲」にならないようにしましょう。

大琴小学校発足

4月4日 祝福受けて開校式



児童・地域住民ら約 200人が出席して大琴小学校の新しい門出を祝った

宿小と袖山小が統合して四月から発足した大琴小学校の開校式が、同月四日同校体育館で行われました。

うららかな春の陽ざしに恵まれたこの日、式場には、町、議会、教育委員会の関係者、同校教職員、児童、地域住民ら約二百人が出席、同校の新しい門出を盛大に祝いました。

式では、まず佐藤教育委員長が、「地域の方々の理解と協力により大琴小学校が発足したことは喜びに甚えない。宿・袖山両地区には独特な教育風土があり、極めて優秀な成果をあげてきている。今後も、お互い手を取り合い、励まし助け合って、さらにりっぱな新しい大琴小学校の校風を造るために努力してほしい」と式辞。

続いて小松町長が「わが国は、長い間受け継がれてきた教育意欲と実践により今日の発展、繁栄をみたものであり、新しい大琴小学校の発足にあたり、社会で成さなければならぬものの根本はやはり教育であると改めて感じた。心から同校の発展を祈る」と祝辞。さらに、小野町議会議員、中央教育事務所由利出張所の木谷所長補佐からお祝いのことばが述べられました。

このあと、小笠原校長が在校生に向かい、「みんなは今日から大琴小の子供たちです。校名に誇りを持ち、りっぱな学校を築きあげるよう、今年はいっしょに土台づくりにお互い仲よくがんばりましょう」と呼びかけ、遠藤統合実行委員会代表が、「円満な統合実現までには嵐もあり、波もたつた。しかし、両地区住民が話し合いを重ね、理解を求め、協力し努力して今日に至ったものであり、今後も和をもって大琴小発展のためにこ



佐々木直哉君が全校児童を代表して「すばらしい歴史を創っていきたくことを誓う」と誓う

最後に、全校児童を代表して六年生の佐々木直哉君が、「みんな仲よく元気で勉強や

統合までのあゆみ

袖山地区

子供の将来のため「複式解消」を

袖山小学校は、明治二十八年に館前尋常小学校袖山分教室として開校、以来八十五年の長い間、地域の教育・文化の中心として役割を果たしてきました。

同校は、昭和十年に二学級、二十六年には三学級編成となっていました。

ますます教育が重要視される中で、父兄の間では子供の将来を考え、昭和五十年ごろから「複式解消」を望む声が出されていきました。

こうしたことから五十四年七月に「袖山小学校を考える

翌々日の六日には同校入学式が行われ、ピッピカの一年生も加わり全校児童九十四人（うち大台分校五人）が勢ぞろいし、限りない未来に向けて新たなスタートを切りました。

父母の会」が発足し、その相談機関として顧問会も結成され、宿小との統合を想定しながら地域の教育について協議検討が続けられました。

こうした中で五十五年三月には、町当局と教育委員、議会議員、地区住民が出席して教育懇談会が開かれ、▽道路整備に見合った統合の時期▽通学手段―などが問題として残っているが宿小との統合の必然性を確認し、「袖山小学校問題協議会」を結成して具体的に諸問題を検討することになりました。その結果、PTA役員と父母の会から、宿小学校との統合に伴う校名変更、通学手段の確保等五項目の陳情書及び要望書が町と町議会に提出され、五十五

スポーツに励み、新しくなった大琴小学校のすばらしい歴史を創っていくことを誓う」と述べ、会場から盛んな拍手を受けました。



袖山地区の子供たちはスクールバスで通学…… 555万円で購入され、‘やまびこ’、と名づけられたバスは47人乗り。登校時は1回、下校時は低学年と高学年に分けて2回運行

年十二月の定例議会で、議会はこれを採択しました。こうした経過をふまえ、本年一月三日、町当局、教育委員、地区住民が出席して袖山地区小学校問題懇談会が袖山小で開かれ、道路整備も進み、通学手段についても解決できる見込みがついた」として五十六年度から新校名で宿小と統合したいという最終的意

見の一致をみました。

宿地区 将来展望に立ち

統合・校名変更

一方、宿小は、明治二十五年に開校され現在に至っていますが、校舎の老朽化が著しく、昭和五十三・五十四年の二カ年にわたり、国の

景気浮揚対策の一環として実施された老朽校舎の解消を促進させる施策により近代的校舎に改築されました。

こうした中で五十五年三月、袖山小との統合の対応策を具体的に検討する必要から、PTA代表や各自治会長を委員とする「宿地区小学校問題協議会」が発足しました。

その後今年一月、昭和五十六年四月から統合したいという袖山地区の意向をもとに同協議会は、七日に役員会、十日に役員及び自治会長合同会議を開き、統合と校名変更の対応策について協議しました。

その結果、

① 統合により児童数が増加することは、両地区にとっても大きな教育効果が期待できる。

② 袖山小は、小人数の学校であるとはいえ、独立校として長い伝統と文化を持つ学校であり、この学校に対する愛着を断ち切って統合しようとする袖山地区住民の心情を十分参酌しなければならない。

③ 校名にはこだわらないで子供たちの教育の将来展望に立ち、統合に合意する。

ということ意見が一致しました。

校名選定は地域が主体となつて

新校名の選定は地域が主体

となって進めてほしい」という町当局と教育委員会の意向に基づき、両地区では、各六人の委員により「宿・袖山小学校統合実行委員会」を組織し協議しました。

その結果

① 新校名は、対外的にも知られ、所在地がまぎらわしくないこと。

② 児童並びに地域住民が愛着を感じ、しかも語感が良いこと。

などの観点から、「大琴小学校」とすることに意見が一致し、町と教育委員会にその旨を報告、教育委員会はこれを了承しました。

こうして一月二十七日、宿・袖山両小学校を廃止して大琴小学校を設置するという町立学校条例の一部改正案が臨時論会で満場一致で可決され、統合が決定したのです。

両校の沿革 (概要)

宿小学校

- 明治7年 蔵小学校宿分教室設置
- 25年 宿尋常小学校として創立
- 39年 沼冬季臨時教育場開設
- 大正8年 大台家庭教育場開設
- 昭和5年 校庭周囲に桜植樹
- 9年 増築落成式挙行政
- 16年 下郷村立宿国民学校と改称
- 22年 下郷村立宿小学校と改称
- 24年 大台分校(常置)設置

正式に統合が決まって両校PTAは、大琴小開校と同時にスムーズなPTA活動ができるようにと大琴小学校PTA設立準備委員会を結成し、また、両校児童と父兄の交歓会を開くなど、交流を重ねながら態勢を整え、開校式を迎えたものです。

特色ある両校の伝統を継ぐ大琴小に期待

それぞれ九十年近い長い歴史の中で、特色ある地域文化を形成してきた宿・袖山両校の伝統を受け継いだ大琴小学校は、次代を担う児童の豊かな教育の場として、また、地域の教育社会のよりどころとして、その将来の発展に寄せる町民の期待は大きいものがあります。

袖山小学校

- 明治20年 館前小学校袖山分校設置
- 28年 校舎落成・館前小学校袖山分校として開校
- 35年 袖山尋常小学校と改称
- 大正10年 新校舎落成
- 昭和10年 二学級編成となる
- 16年 玉米村立袖山国民学校と改称
- 22年 玉米村立袖山小学校と改称
- 26年 三学級編成となる・学校改築、主体操場新築
- 30年 東由利村立袖山小学校と改称
- 34年 県指定へき地教育研究会開催
- 35年 文部省指定へき地教育公開研究会開催
- 42年 中央地区複式学習指導研究協議会開催
- 51年 地区新グラウンド完成
- 52年 町発明工夫展で学校賞受賞
- 54年 貯蓄優良校として表彰
- 55年 市郡複式指導研究会開催
- 25年 体操場改築
- 30年 東由利村立宿小学校と改称・校舎増築
- 49年 子ども銀行東北郵政局長表彰
- 51年 全国発明工夫展で発明協会長賞受賞・郡市小学校野球大会優勝(県大会出場)
- 52年 プール完成
- 53年 創意工夫優秀校として科学技術庁長官賞受賞
- 54年 学校保健推進校(53・54年度)の県指定受ける・体育館、食堂、調理室落成、完全給食実施
- 55年 全国発明工夫展で文部大臣奨励賞受賞・郡市小学校野球大会優勝(県大会で準決勝進出)
- ・校庭、グラウンド拡張
- ・県指定学校保健教育公開研究会開催・PTAが文部大臣表彰



お昼は食堂で全校児童・教職員がいっしょに給食
……今日のメニューは「さげごはん」「肉汁」
「だもの」「牛乳」——モリモリ食べて丈夫な良い子に



よく遊び、よく学び、みんな仲よく助け合っておりっ
ばな人間に

大琴小レポート

融和創造

学校長 小笠原 昭

若芽の萌え出する力は素



晴しい。純朴な感受性に富む子どもたちは、親、教師の心をいち早くとらえ大琴小学校の子どもであるという自覚と誇りを持ち、より多くの友との友情を深め連帯の絆をかたくかたくなながら新しい澁刺とした校風づくりに励んでおります。

精神として今日まで継承されて参りましたが新生大琴小学校の出発にあたり、過去のよりよい両校の伝統をここに、渾然一体としたものに融和させ、個性ある学校の創造をめざして師弟同行、即ち俱に学び俱に働き俱に向上するよう全校一丸となつて邁進したいと思っております。

開校一カ月・喜びの声

児童

いつのまにか
仲よしに

五年 遠藤育英(宿)

ぼくたちは、袖山といっしょになつて大琴小学校になりました。

袖山といっしょになることは、前からわかつていたけれども、仲よくしていただけるかなあーと不安な気持ちでした。

五年のクラスには、袖山の人たちはいないけれども、ほかの学年の袖山の人たちといっしょに遊んだりしているといつのまにか仲よしになっていました。

ぼくは、袖山の五年生の人

がないので、ちよつぱりさびしいようになつたらないような気持ちもしましたが、全体の人数がふえて、にぎやかになったので、毎日が楽しいです。

今までにな

い学校を

六年 佐藤進(大吹川)

ぼくは、袖山小学校で五年間勉強してきました。他の五校とは違い、人数は少なかったけれどもみんな仲よくやってきました。

これから、大琴小学校のみんなと仲よくしていきたいです。

大琴小学校に入つてもう三週間がすぎました。

初めのうちは不安でしたが、

今ではもうなれて、友達もたくさんできました。

そしてぼくは、全校の放送部の書記になつています。うまくみんなについていけるかわかりませんが、ぼくはぼくなり一生けんめいやっていきたいと思つています。

ぼくは、スポ少のほうでもまだ陸上しかやっていないので、もっと体力をつけて野球のほうもがんばってやりたいです。

わからないところはみんなにきいて、今までにない学校をきづいていきたいです。

教師

新しい仲間と

一年担任 高橋幸子

旧袖山小学校から十六人の児童と共に大琴小学校に来てから、はや一か月を迎えよう

としています。

以前は少人数で家族的な学校生活に馴れた子供たちが、はたして多人数校のそれぞれの学級に入り元気に学習することができるようかと不安もあつたが、新しく明るい校舎と設備の整った教室で、みんな仲よく元気いっぱい学習に運動に、毎日楽しく過ごしている今日この頃です。

あるとき、子供たちに新しい小学校の感想を聞いてみましたら、次のような答えが返ってきました。

「最初は大琴小に来るのはいやだったけど、今では友達もできて多くの人たちと勉強もできるし、給食もおいしくて、まだ一回も残したことがありません。

今は、大琴小学校に来てよかったと思つています。」と

学級に新風

四年担任 須田礼子

新学期と共に九人の学級に三人の袖山小の友達仲間入りしました。

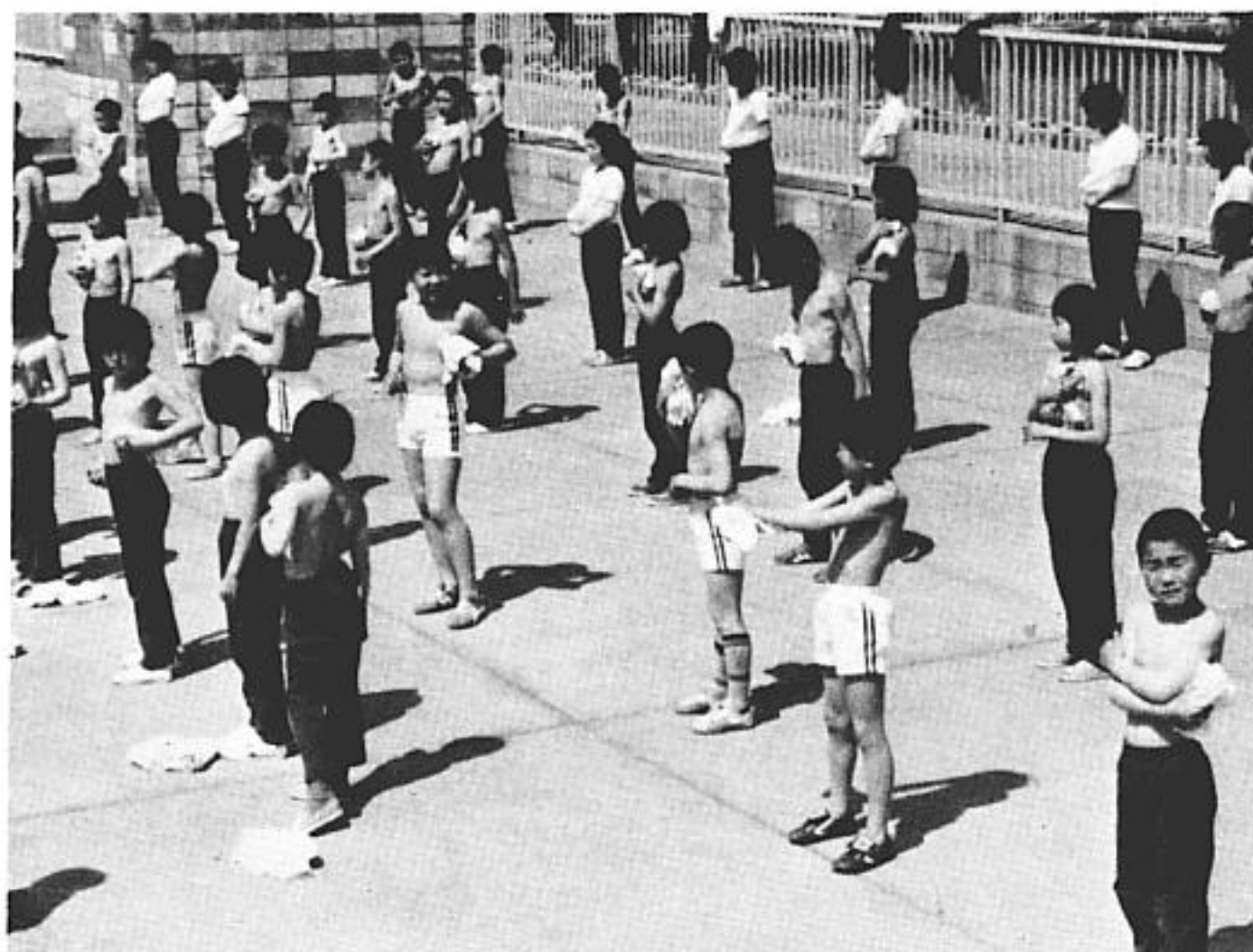
進級の喜びに加えて、新しい友達の仲間入りは教室の空気を一変させました。

期待感と不安の入り交つた複雑な雰囲気が教室の空気を緊張させたようです。

私は、この空気を和げるために、遊びと仲間作りに、ここ一か月努力してきました。子供たちは、大人が考え

楽しい学校生活

ピーピ、ピッピッピ……高学年の児童はグラウンド開きもかねた春の運動会を前に鼓笛演奏の猛練習



元気な`はだかつ子、……太陽の光を浴びて1日もかさず乾布まさつ

町長訓示

自己向上の意識を持って

昭和五十六年度の年度当初にあたる四月一日、小松町長は職員人事の異動辞令を交付したあと、全職員に対し、次のような訓示をしました。

四月一日は、新予算執行の始まる日です。新予算の執行にあたって大事なことは、第一に自分の持っている予算内容を覚えておくということです。そうすることによってきちんとした執行計画が立つものです。特に若い諸君に言いたい

ことは、皆さんは地方公務員として当然必要な条例、規則といったものの勉強が少し不足しているのではと感じます。一日八時間の勤務時間の中で、日常事務を行い、条例・規則も勉強するということは難しいことです。個人としてのレベルアップするためには、一般教養的なものはもちろん、

仕事上で必要な専門的なものも自分の時間の中で人知れず勉強するといった自己向上の意識をもって自己研鑽に努めてほしいと思います。そして、条例・規則を順守しながら全体のレベルが向上するよう事業計画、執行にあたってほしいと思います。

本町には▽水田利用再編対策▽小学校統合▽過疎対策▽財政▽教育といった課題があります。町の現状、問題の背景をよく認識してそれぞれに対処してほしいと考えます。本町は、地勢的にみて他地域との連帯が薄い地域だと思います。だが町勢発展のためには、どうしても他郡町村との

連帯を深めなければなりません。幸い、国道一〇七号線改良期成同盟会等々、連帯の姿も出てきていますが、一番基本になることは、良い町をつくることだと思います。

「東由利はいい所だ、一度は是非行ってみよう」という気持ちを起こさせるような町づくりを進めることが連帯を得る精神的土壌の基本だろうと考えます。

皆さんの顔・体・声は東由利を代表するものです。そうした理解を持って行動してほしいと思います。五十六年度スタートの今日から、お互い勉強し、協力しあうことが、良い町をつくることだと思います。

父兄

子供たちは水を 得た魚のよう

武田 秀夫(須郷)

地域のみなさんのご理解を得て四月一日から統合すること

✓しているよりもはるかに包容力があり仲間意識が強い。決して排他的な行動をとるような子はひとりもいません。複式、小人数学校で育ったとは思えない積極的な子供たちの仲間入りで、教室にはまた今までと違ったさわやかな新風と新鮮な空気が満ちあふれ、学級経営によせる期待が大ききふくらんでいます。

とができましたことを、心からお礼申し上げます。さて、子供たちがどのような心配でした。最初のころはとまどいもあつたようですが、今では、「前とどうか」と聞くと、子供たちの口からは「おもしろい」ということが返ってくるようになり、安心していきます。

いま子供たちを見てみると、なにか水を得た魚のようにいきいきとした姿に見えます。良い環境の中で、今までやれなかったことも存分にやれることは、子供たちにとって大きな喜びだと思います。これからは、勉強にスポーツに一生懸命がんばっていた

だきたい。「本当に良かった」の一言です。

だれもが「これでよかった」と

佐々木日出夫(大琴)

宿小学校在新しく建設された袖山小学校の父母は現在の学校に別れる決意をしていたときではなかったのではと今思いますが、感慨深いものがあります。

新年に入り、宿小学校在に統合したいという要望が町に提出されたことを私たちが知った数日後、袖山小の父母と子供たちが全員宿小学校を見学

にきました。子供は子供同士、親は親としての語らいがありました。そして、「今度来るがらたのむど」と全員が固い握手。その手の中の暖かさに、私たちは応えてやらねばと思つたものです。

私たち親は、どんなときでも世間の噂や無責任な部落の一住民の声に惑わされることなく、「目的をはっきり持ち」子供たちのために、今までより少しでも良い教育環境・場所を与えてやるのが願いであると信じます。

いま統合が実現し、毎日毎日楽しく元気に飛び回る子供たちの姿を見る父母は、「これでよかった」とだれもが感じることでしょう。

もう“ポイ捨て”はやめて

青団連 国道をクリーンアップ



あまりの多さに驚きながらもゴミくず拾いに汗を流す青団連会員

「ゴミのないきれいな町づくりは若者が率先して」——町内六青少年団体が組織している町青少年団体連絡協議会では四月十九日、同月二十六日から行われる全町清掃週間に先がけて町の大動脈である国道一〇七号線のクリーンアップ作戦を展開しました。

久しぶりに朝から晴れ上ったこの日、商工婦人部も協力を申し出て各団体から合せて五十人余りが参加。全員が四班に分かれ、板戸から奥ヶ沢までの延長十七キロに及ぶ沿線の側溝や路肩の枯草の中から心ないドライバーや通行人に「ポイ」されたゴミくずを拾いあげました。

ゴミ袋には、下通の小松鉄

郎さんが飼料用紙袋三百袋を寄贈してくれました。

雪が消えたあとの道路両側は、さながらゴミの「帯」。数十メートル行かないうちに袋の中は空きかんや紙くずでいっぱい。このほか、コーラビン木くず、鉄くず、車のホイールキャップ、タイヤなどが続々とトラックに積み込まれ、荷台はすぐに満杯。また、一升びんもかなり多く「こりやひどい」と青年らもあきれ顔。

行動開始後三時間足らずで二百三十八袋がいっぱいになり、ゴミ収集業者へ。

作業を終えた青年らは「ドライバーのモラルの問題。こうして拾ったあとにまた捨てられるかと思うと腹がたつがドライバーのマナーが向上しない限り今後も続ける」と話していました。

東由利の

地名

= 11 =

水上は文字の示すとおり水の上のことであろう。地形的にみて必ず深い沢が流れて水が流れてるし、人が住んで生活した所より上にある地名のようである。これに類したことは、名古と須郷との境に、水頭・大水頭の地名があるが、水上と共に、こうした地名を付し大切にしたのでないか。

水機などによって、自然のかかわりや、水の恩恵に対する感覚などが麻ひしている。昔の生活は、水との関係がことのほか深く、湯出野遺跡時代は川のそばや泉のほとりなどの生活であった。それが「入水」（沢水を生活用水として家庭まで引っぱってくる）の技法をみだすことになって、生活の場がひろがるようになった。同時に水は、食をはじめとして、農耕用水としても、毎日のくらしと更に深いかわりを持つようになった。

水上

②

た。したがって水が汚染することは、病気の危険をはじめとして、くらしの基盤を失うことにつながりかねない、大変なことだったのである。

だから水を自然を自然として神格化し、神聖なものとながめ、屋敷内や水上の地名付近の入口や山の上などに、「水神様」を祀るのは、昔の人々の素朴な心のあらわれなのである。そして真剣で必死な戦いが、切ない気持ちもこめられているのでなかろうか。

(畑山昭一)

東由利電報電話

局が回覧板寄贈

「地域自治活動の振興に役立ててください」と先ご

ろ、東由利電報電話局からサービス事業の一つとして、ビニール張りの回覧板二百十枚が町に寄贈されました。

この回覧板は、二つ折り縦が三十一センチ、横が二十一センチあります。

町では早速、各自治会ごと

に「となり組数」ずつ配布し活用してもらうことにしました。

配布物や回覧物が年々増加するなかで関係者は、思わぬ便利なプレゼントに喜んでいきます。

町長日記

四月三日、国の予算が成立し、本町への各公共予算が公表された。建設省は五億六千三百万円（うち蔵工区二億六千四百万円）、農林水産省関係十二億四千万円（うち県圃分三億九千万円）で先ず先ずの線である。

四月二十一日、自治会長会議。小畑前知事さんは地方自治の根幹は市町村にあると常々申されていたが、市町村よりさらに人間集団の生活の自治は集落にこそあると思います。

四月十九日、青団連によって一〇七号線がクリーンアップされました。二百三十八袋の空きかん等が回収されたということです。文化の度合の一つに環境の整備と美化があります。冬期間汚された一〇七号線が陽春の一日若いエネルギーで清掃されたことに感謝します。

四月二十三日、出羽丘陵開発協議会。これまで大森町と雄物川町で出羽丘陵開発東部地区となっておりましたが、今度、本町と大内町が加入して四力町で新たな東部地区ができました。そのための連絡組織をつくること、これからの事業進行の協議をする会でありました。

事業の早期発注に努力します。

このため、自治会長さんは時間と労力を奉仕してやることに對して、改めて認識を深めたいと思います。

5月のこよみ

曜日	行事
1 金	
2 土	春の清掃指導日
③ 日	
④ 月	
⑤ 火	
6 水	牛アカバネ病予防注射(6日~8日)
7 木	
8 金	
9 土	
⑩ 日	
11 月	
12 火	ことぶき大学(10:00~朋楽荘) 生ワクチン投与(13:00~有隣館)
13 水	ツベルクリン反応検査(13:00~有隣館)
14 木	乳児健康相談(13:00~有隣館)
15 金	秋田県植樹祭(二ツ井町) BCG予防接種(13:00~有隣館)
16 土	
⑬ 日	
18 月	
19 火	老人健康診査
20 水	老人健康診査
21 木	
22 金	老人健康診査
23 土	
⑭ 日	
25 月	水田利用再編対策幹事会
26 火	老人健康診査
27 水	老人健康診査
28 木	農業委員会 水田利用再編対策協議会
29 金	三種混合予防接種
30 土	
⑮ 日	
摘要	中旬 朴ノ木沢放牧場開牧

組合長に小松慎一氏

農協役員決まる

かなく、無投票当選となつて
います。
また、同月二十一日には互

選会を開き、組合長理事に小
松慎一氏、次席理事に小笠原
謙一氏、代表監事に佐藤徳四
郎氏を選出しました。

水田利用再編対策など年々
厳しくなる農業情勢の中にあ
って、農協の果たす役割は大
きく、新役員の活躍が期待さ
れるとみられます。

◎理事当選者
〔下郷選挙区〕・柴田浩(須郷
田、51歳)・小松慎一(高戸
屋、63歳)・小松幸男(石高、
40歳)・佐藤正一(津沢、65
歳)・遠藤光昭(下小路、32
歳)

◎監事当選者
〔下郷選挙区〕・遠藤聚一(宿、
54歳)・阿部善信(蔵、53歳)
・阿部和雄(杉森、38歳)・小
松政治(下通、58歳)・小笠
原謙一(土場沢、54歳)・宮
塚昭三(新町、53歳)・遠藤
熊太郎(新外、55歳)

◎総代決まる
四月十七日任期満了による
東田利町農協役員選挙は、
定数通りの立候補者しか
なく、次の方々の無投票当選が
決まりました。(敬称略)

◎共済組合の
総代決まる
四月三十日任期満了による
由利農業共済組合の総代選挙
は、定数通りの立候補者しか
なく、本町関係では次の方
々の無投票当選が決まりました。
(敬称略)

◎行政相談員に
阿部寅静氏
本町蔵の阿部寅静氏(66歳)
は、四月一日付で行政管理局
長官から「行政相談員」に委
嘱(再)されました。

◎お詫びと訂正
四月一日発行三二三号の九
ページ「さようなら袖山小学
校」の記事中、「袖山小は、昭
和二十八年十一月……開校」
となつていますが「袖山小は、
明治二十八年十一月……開校」
の誤りでした。

また十三ページ「うぶ声」
の記事中、「畑山裕美 島克
司」となっていますが「畑
山裕美 島 克司」の誤り
でした。
お詫びして訂正します。

かわらばん

町の概要

人口総数	6,334人
うち男	3,109人
うち女	3,225人
世帯数	1,441戸
面積	148.51km ²
(56.3.31現在)	

保、35歳)・佐藤徳四郎(泡
の淵、52歳)
〔下郷選挙区〕・藤原陽太郎
(上通、47歳)・佐々木一郎
(大琴、54歳)・遠藤時男(小
倉、54歳)
(届出順・敬称略)

本島富三(宮の前)・小松佳
和(田代)
また、四月十三日に第一回
役員会を開き、組合長理事に
工藤三雄氏、同副に石綿壬
子雄氏、代表監事に小松与惣
雄氏をそれぞれ再選しました。

佐藤好男(津沢)、高橋一男(松
柴)、小野勝造(上里)、阿部
千代志(横渡)、佐々木幸雄(大
琴)、島山清(袖山)、小松正
次(下小路)、遠藤一男(野田)
小松彪(板戸)、長谷山昭一(湯
出野)、小松勝男(畑村) 以
上二十二人

○うぶ声
小松 靖 宮の前 操一 二男
島山明彦 大吹川 英昭 長男
高橋友和 袖山 孝次 長男

○結婚
小笠原 豊和 蔵新田
小松 レイ子 本莊市
遠藤 博秀 蔵新田
鈴木 育子 鳥海町
小野 武男 上里
小野 京子 館合新田

・お悔み申し上げます
長谷山繁男 地下の沢 61歳

五郎さん(黒沢)から
▼大琴小へ交通安全腕章110人
分 小松清さん(秋田市)から
▼大琴小へ3万円 秋田宿会
から

慶弔だより
3月21日~4月20日

結婚披露宴を考える

大きすぎる負担

「望んでいるが 出来ない会費制」



年々派手になる結婚披露宴

結婚式や披露宴を行う側としては、一生に一度の門出であり、会費制結婚式については内容がよくわからず、またこれまでのしきたりのことも

なわれてきた結婚式、披露宴は年々豪華で派手になってきており、何かと出費が多く物価高に悩まされているときだけに、招待される側からも主催する側からもあまりにも負担が大きすぎるという反省を促す声が高まってきています。

こうしたことを背景に昨今結婚披露宴の合理化について農協婦人部や、婦人会等が中心となり具体的内容について話し合いがなされて来ています。

結婚披露宴の
合理化を一層推進
たくましいエネルギーと夢

あり、実施にふみきれないのが現実となっています。

海外研修生募集

本町から
2人予定

昭和56年度の秋田県海外研修事業で、当町には下記部門にそれぞれ1名ずつの参加枠が予定されておりますので、希望される方、又は推せんしたい方がおりましたら詳しい資料を準備しておりますので5月30日まで町公民館へご連絡ください。

研修部門	青年・婦人海外研修	中核農業者海外研修
実施期日	昭和56年8月26日～9月8日(14日間)	昭和56年9月1日～9月14日(14日間)
参加対象	青年は20才以上30才未満。婦人は20才以上40才未満	30才以上46才未満
訪問国及び主要訪問地	ソ連(モスクワ・レニングラード)西ドイツ(フランクフルト、ミュンヘン)スウェーデン(ストックホルム)フランス(パリ)	西ドイツ(ボン・ケルン、フランクフルト、ミュンヘン)スイス(チューリッヒ)フランス(パリ)オランダ(アムステルダム)
経費	1人当り740,000円	1人当り775,000円
負担区分	本人 270,000円 市町村 220,000円 県 250,000円	本人 305,000円 市町村 220,000円 県 250,000円

ミエを脱ぎ真心

着せて嫁ぐ門出



をもった若い二人が、深い愛情と理解をもって新しい生活を築くために誓い合い、出発するのが「結婚式」であり、それを祝い励ますのが「披露宴」であるといえます。

町公民館では今までの古いしきたりや世間体を気にしないで、簡素な中にも意義深い結婚式、披露宴であるべきだという考えのもとにこの合理化運動を定着させたいと考えています。そのためできるだけぎりの援助と相談に応じていくことにしています。

公民館図書 早目に返本を



公民館貸出し図書の返本が遅れがちになっています。貸出し期間は原則として一週間です。ので期限内に返本くださるようお願いいたします。

さあ、仲間を呼ぼう、腕を組もう。そして語らいのなかから生き方を見つめよう。



昭和五十六年度の青年の家主催事業がスタートします。

・とき 5月21日(木)～24日(日)
・ところ 秋田県青年の家

新刊購入図書

公民館図書室に次の図書を購入しました。

▼最新感覚のレタリング大字典(東陽出版)▼歴史への招待(13)(藤根井和夫)▼むかしいま秋田民謡(フジオ企画)▼蒼い時(山口百恵)▼現代の帝王学(伊藤肇)▼シルクロード絲綢之路第6巻民族の十字路イリカシユガル(NHK取材班)▼角川日本地名大辞典7福島県▼秋田書画人伝(井上隆明)

5月の公民館行事

【1日】青年団体連絡協議会総会(公民館)【5日】青年駅伝大会(公民館前スタート)【7日】社会教育委員会(公民館)【8日】スポ少本部委員総会(公民館)【12日】ことぶき大学(朋楽荘)【13日】郡市社会教育懇談会(有鄰館)

県内各地から大勢の仲間が集まっています。行きましよう友達をつくり